

自分の言葉で 自分の思いを



愛知県立岡崎東高等学校長
古井 成之 氏

教育随想



平成 29 年 5 月 1 日

5 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

| | |
|--------------------------------|---|
| 教育随想…………… | 1 |
| 愛知県立岡崎東高等学校長 古井 成之 氏 | |
| この人に聞く…………… | 2 |
| 染物職人 治々和好治 氏 | |
| 羅 針 盤…………… | 2 |
| 前書写指導員 柴田 明美 | |
| ふれあい…………… | 3 |
| 羽根小 杉浦英理奈 | |
| 特 集…………… | 4 |
| 岡崎の魚市場 ～地元の新鮮な魚を 岡崎へ届ける～ | |
| お知らせ…………… | 6 |
| フォト・ヒストリー… | 8 |
| 国語科研究授業 (大正 15 年) | |
| この本を…………… | 8 |

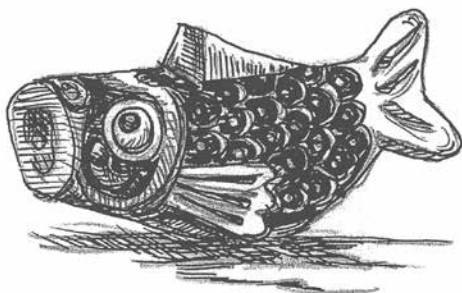
平成二十九年入試から、愛知県の公立高校（全日制）の入試制度が大きく変わりました。学力検査では、思考力・判断力・表現力などをこれまで以上に測ることを目的として記述式解答が増え、検査時間が延長されました。また、推薦選抜の面接では、従前の「ことばによる自己表現」から、質問に対して自分の考えを一分間程度で答える形式に変更となりました。要するに、事前に志望動機や自己PR等を含めた回答を作成して面接に臨むのではなく、当日の質問に対して、その場で考えをまとめて自分の言葉で思いを伝える形になったのです。これらの改革は「自らを高めること」と「社会に役立つこと」を基本的視点とした、「あいちの人間像」の実現を目指した取組の一つであります。

先日、企業の方からこんなお話を聞きました。部下から、「午後からお休みをいただきます」とか、「昨日は〇〇について申し訳ありませんでした」など、上司の自分が目の前にいるにもかかわらず、メールで連絡があったということでした。どうして自分の言葉で直接一言が言えないのかと嘆いておられました。

通信機器の普及に伴い、メールやラインでのやりとりが日常的になった昨今、若者のコミュニケーション能力の低下が叫ばれています。言葉には電子文字にはない「言葉が宿っています」。現在、各教育現場では児童生徒の言語活動の充実に向けて様々な取組や工夫が行われています。今後、家庭・地域・学校の協働により、多くの大人がさらに積極的に子供たちと関わることで、魂のこもった自分の言葉で自分の思いを伝えられる、心豊かでたくましい若者を育成していく必要性と責務を痛感しています。

たこのこと。携帯電話のなかった三十年前、妻に、恋文でもなく、当然メールでもなく、自分の言葉で「結婚してください」と、胸を高鳴らせ赤面しながら告白した自分が、何故か急に愛おしく思えてきました。

(ふるい なるゆき)





紺色の指先が語る思い

染物職人

治々和好治 氏

自らが染め上げた三河木綿の法被。それに身を包んだ治々和さんは、祖父の代から法被、のれん、のぼりなど、手作業での染め物づくりを受け継ぐ職人だ。

「戦時中は軍需工場で働き、その後は学校を出て、家業の染め物を祖父と二人で取り組んできました。」

七十年以上染め物一筋の治々和さん。今は息子さんと二人三脚で家業に精を出している。

「小刀で繊細な型紙を彫るには、神経を使います。できたら糊置きをしますが、雨天だと乾き具合に影響が出るため、仕事ができません。また、

染める度に出来が違います。型紙作り、糊置き、染め、洗いなど十種類以上の工程を三日程かけて行うからです。最初は良くても、どこかで悪くなる場合もよくあるんです。」

失敗作を前に、「ここにむらがある」と指さされた柄を見ても、素人の目にそのむらの判別は難しかった。

「失敗と思えば、商品にはしません。失敗も多い分、きれいにできたときの喜びはひとしおです。それが手で染める魅力だと思っています。」

しかし、手作業での染め物は苦勞が多いためか、近年機械化が進み、昔に比べると注文数も減ってきた。

「手作業の染物屋が減りました。うちも、藍染めから染料へと材料を変え、染められる色の種類を増やしました。これも、時代の流れです。」

それでも、手作業にこだわりをもち続けてきた思い出の一つを語ってくれた。

「ある日、五十年前にお宅で作ってもらった物だと言って、お客さんからねずみ色の法被を渡されました。でも、それは元々ねずみ色ではなく、紺色に染め上げた物が、長い年月を経て色落ちた物だったので。触っても丈夫で、柄も残り、味のある品になっていました。長く大切にされてきたのだと、うれしかったですね。」

だからこそ、大切にしていきたいものがあると治々和さんは語る。

「お宅の手で染めた法被が好きだ。そう言ってくれるお得意さんがいるからやっていきます。だから、うちは一枚からでも柄、色、寸法まで話し合って注文を受けます。全て喜んで作ります。本当は手間ですけどね。でも、うちの商品を気に入って、また注文したいと思ってもらえたらありがたいことだと思っています。」

紺色に染まる指先は、一枚一枚ていねいに思いを込めて木綿を染め続けてきた証である。

「夏は、祭り関係の注文が多く、法被の注文を一度に百枚いただいたこともあります。」

治々和氏の職人としての心意気は手染めの法被という形で私たちの目の前に現われている。



氏名 じじわ よしはる
生年月日 大正十五年五月三十一日
住所 岡崎市亀井町



書写指導の役割の自覚を

前書写指導員

柴田 明美

文字を整えて美しく書きたいという思いに授業で応えたい。

「湖」の三つの部分の組み立て方の秘密を見つけて書こう」という六年生の授業。子供は前時の毛筆の試し書きと手本との違いを考える。「古」の横画をもっと短くする」「三つの横幅をそろえろ」とい。

ここで、A教諭特製の文字の分解シートの使用で気付きが深められる。「手本の『古』の横画はさんずいの方に出ています」「月』の左払いはまっすぐ下ろしてから払います」「付け足しで『古』は上の方にあります」。学び合いの中で子供は「湖」の部分の組み立て方を理解する。

次に、A教諭から「くするのために、くを書く」というめあての話形が示される。子供たちは、この話形に沿って自分のめあてを考えた。B男のめあては「三つの幅を同じにするために、さんずいの点の間から『古』の



こんなに大きくなったよ

羽根小

杉浦英理奈

たくさんの涙を流しながら大声を上げて泣くA男。この姿を見るのは、A男が入学してからの数週間で何度も見た。

私の学級では、朝の健康観察の時間に前日の出来事を話すことにしている。しかし、A男は、普段は落ち着きがなく言葉数が多いのに、改まって物事の様子や自分の気持ちを話すのが苦手で、どんなに優しい言葉をかけてもうまく話すことができなかった。一度泣くと気持ちを切り替えることも難しい。後からゆっくり話を聞いてみると、話す内容に自信がもてないことが原因であることが分かった。私は、A男に自信をもって話せるようになってほしいと思った。

五月、生活科の学習「植物を育てよう」で、アサガオの栽培を行うことになった。土から顔を見せた芽に、

A男は嬉しそうな表情を見せた。その笑顔を見て、アサガオの生長を感じると共に、学級の友達との学び合いを通して、具体的な話し方を学ぶことはできないかと考えた。

自分の頑張り、アサガオの生長に反映することを実感できる手だてが必要だと考え、「一年四組アサガオ生長記録」を作ることにした。これは、生活科ノートや写真を、時系列にアサガオのつるの形にまとめていく掲示物である。アサガオが伸びていく様子や、栽培活動の様子を一目で確認ができ、アサガオのように上へと伸びていくことを目標に、他の児童と共に学ぶことができる考えた。そこには、A男のワークシートや、アサガオの世話をしている写真も貼った。ワークシートの、「水をたっぷりあげました」「大きな葉っぱが三枚出ました」など、A男の取り組み姿や正確に観察できている言葉には、称賛の朱書きをするよう心がけた。

つるが伸びるころには、アサガオの生長の様子を、真剣に絵や文で生活科ノートにまとめるA男の姿があった。「一年四組アサガオ生長記録」に自分の頑張りが反映されていることが励みになっていったのだ。

さらに、朝の健康観察の時間には、その日の朝に行った「アサガオの健康観察」の様子を話すようにした。A男

は「つるが、前はひざの辺りだったのに、今はお腹の辺りだよ」と元気に学級の友達に報告した。アサガオの生長だけでなく、A男の成長を実感した瞬間であった。

「A男君みたいに、体のどの辺りって言うよ、みんなにわかりやすいよね。」学級全員からの大きな拍手に満足気なA男がいた。

秋になって、アサガオにたくさん種ができた。次の春に、新一年生に種をプレゼントすることを楽しみにするA男の姿には、入学当初の自信のなさは消え、進級に向けて、「僕はこんなに大きくなったよ」というメッセージも感じられた。「お姉ちゃんといつかしてしまいたい。悲しかったです。」

「こどもの家でドッジボールをしました。ジャンプしてよけて、最後まであてられませんでした。」

朝、笑顔で話すA男の姿。また今年もアサガオの種をまく時期がやってくる。A男が育てたアサガオの種も、きっと大きく育つことだろう。



横画を書く」。学びを生かし「古」が細く小さくなるよう練習する。

学級全体に対しては、一字を一筆で書くことを声掛けしている。これは筆脈を意識し、読みやすく速く書く力を付ける、中学校の行書学習への橋渡しを意識しているからだ。

試し書きは字が右に寄り「月」が十分書けなかったB男。まとめ書きの字形は見違えるように整った。書字過程を評価するC男にも、B男が注意して書いた意図は伝わった。振り返りでは、B男は三つの部分の譲り合いで字形が整うと記している。

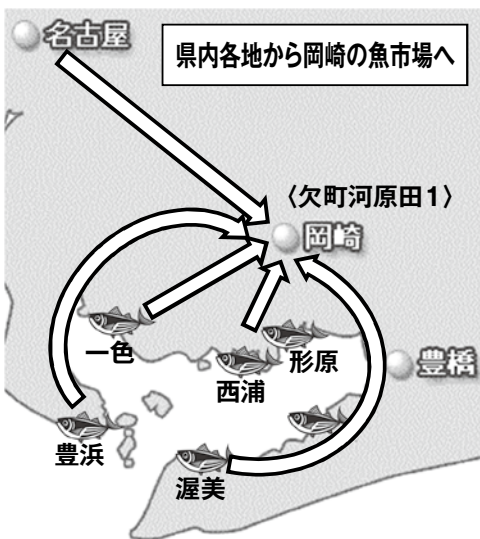
めあてや振り返りにおいて、学びを言語化し、共有することで、子供の「文字を見る目」が鍛えられ、文字の整え方の原理・原則が理解されていく。点画の書き方、筆圧や筆脈は、毛筆の学習で子供に体得されてこそ、硬筆での定着や改善が図れる。確かな書写力は、教材研究と系統的な指導の積み上げで育成される。

ICTの活用が進み、手書きの機会の減少が危惧される。しかし、思いが伝わる手書き文字の力を子供が自覚できれば、その必要感が湧く。「目的や相手に応じて適切に書く力」を育むという書写指導の役割。学級あるいは教科担任として、日々の書写指導に責任をもちたい。手書きや書文化のよさを子供が認識し、継承していく指導を目指したい。



岡崎の魚市場

～地元の新鮮な魚を
岡崎へ届ける～



岡崎の子供が食べるものは、地元で獲れたものや、地元のお店から届くものでありたい。

そのためにできることをしていくのが私の仕事です。

(市場職員 小木曾 進さん)

私たちの食卓に欠かすことのできない魚。海のない岡崎に新鮮な魚を届けるために、魚市場は重要な役割を果たしている。

魚を扱う市場としては市内唯一の愛知県地方卸売市場は、創業から一〇〇年以上の歴史をもつ。国道一号線と高速道路の岡崎インターに極めて近いという立地のよさを生かし、豊浜、一色、形原、西浦、渥美など、三河湾を中心とした県内各地の漁港から、その日に揚がった新鮮な魚がここへ届けられる。また、名古屋中央卸売市場を経由して、日本中はもとより、世界各地の魚も運ばれてくる。そうして集められた魚が、組合員である地域の小売店や弁当屋などに買われ、私たちの口へ入るのだ。また店頭には、寿司屋や料亭などを営む組合員が仕入れたり、企業や保育園の給食として卸されたりするものもある。「地元で獲れた新鮮でおいしい魚を、地元の人に届けたい」というのが、魚市場に関わる人々の願いなのである。

しかし、荷受量は年々減少し、収益は最も多かった時期の三分の一以下まで落ち込んだ。大型店の大量仕入れによるコストダウンや、組合員の高齢化による規模縮小や廃業がその原因だ。そんな苦しい状況を打開すべく、新鮮な魚を使った食堂の併設や、ホームページでの発信など、様々な工夫が続いている。

魚市場の朝



▲ 5:00 市場を開ける → 5:30 各地から新鮮な魚が届き始め、組合員の買い付け開始 → 7:30 競り → 8:30 伝票の整理

魚市場を広める

—楽しんでもらう魚市場への工夫—



▲ 市場に併設された食堂

▲ 市場開放イベント (魚友会 HP より)

喜ばれる魚を届ける

—食卓へ、料亭へ届けるおいしさと安全—



▲ 地域の魚屋へ

▲ 市内料亭へ

▲ 保育園の子供たちの給食へ —鯛めし—

岡崎ビデオ教材もあります
『魚にこめられた思い
～岡崎魚市場の役割～』
おかざき映像教材研究会平成24年度 制作)

C班
『魚にこめられた思い
～岡崎魚市場の役割～』
対象 小学校5年社会 9分29秒



水揚げされた魚が、漁港から魚市場までどのように集められるのか、届けられた魚がどうやって私たちに届くのかを知ることができます。

魚市場に学ぶ子供たち



▲ 職場体験学習 (竜海中2年生)

▲ 社会科の学習 (根石小5年生)



● 教育関係機関だより

◆ 教科書展示会の開催

教科書展示会が、県内二十
七か所の教科書センターで、
開催される。

県教育委員会では、県民の

教科書に対する理解や関心を
深めるために、教科書展示会
を開催する。なお、障がいの
ある児童・生徒の教科書につ
いては、愛知県総合教育セン
ターで展示する。

岡崎地区の教科書センター
は、岡崎市中央図書館内にあ
る。展示会も、中央図書館で
行われる。展示会場には、投
書箱が用意されている。教科書
に対する意見や要望を投稿す
ることができ、教科書につい

て広く意見を聞く場となつて
いる。

○ 展示会場

「岡崎教科書センター」

・岡崎市中央図書館

・岡崎市康生通西四十七十一

☎ 二三一三二二一

○ 展示期間

平成二十九年六月九日(金)

～七月三日(月)

※休館日を除く

○ 展示教科書

平成二十九年年度使用の教科書

○ 教科書改訂の予定

「特別の教科 道徳」の教科書

採択は小学校が本年、中学校

が平成三十年になる。また、

その他の教科書採択は小学校

が平成三十年、中学校は平成

三十一年に予定されている。

● 表彰

使用開始は、それぞれ採択
の次の年になる。

現教科書は、今年度を含め、
小学校は二年、中学校は三年
使用される予定である。

◆ 第19回日本ジュニア管打楽
器コンクール

○ 金管の部

銅賞 北中 吹奏楽部

◆ 第29回中部日本個人・重奏
コンテスト本大会

○ 小学校 個人の部

金賞 竜美丘小 中村 奏帆

○ 小学校 重奏の部

金賞 竜美丘小 サクソフォン五重奏

○ 中学校 個人の部

銀賞 矢作北中 日比野妃莉

○ 中学校部門 重奏の部

銀賞 美川中 クラリネット八重奏

○ 中学校部門 重奏の部

銅賞 新香山中 サクソフォン四重奏

六ツ美中 金管八重奏

六ツ美中 金管八重奏

◆ 第24回愛知県ヴォーカル・
アンサンブルコンテスト

○ 中学校部門

金賞 竜海中学校

銅賞 竜海中学校

◆ 第6回読書感想画中央コン
クール

○ 小学校低学年の部

奨励賞 羽根小 加度ひなた

◆ 第17回東海ブロック中学生
バレーボール新人大会

○ 中学生女子の部

三位 矢作北中学校

◆ 第11回東海中学校選抜卓球
大会

○ 団体男子

五位 常磐中学校

五位 常磐中学校

● 平成二十九年年度校長会役員

〈小中学校長会役員〉

会長 田中 俊二(大樹寺小)

副会長 山本 知子(緑丘小)

永田 勲(竜南中)

杉田 吉男(六ツ美中)

武田 正道(大門小)

中村 郁夫(福岡中)

庶務 福田 貴子(本宿小)

庶務補佐 長坂 洋人(岩津中)

山口 明則(豊富小)

加藤 勝巳(竜海中)

高須 亮平(梅園小)

都筑 祐一(葵 中)

安藤 直哉(翔南中)

市川 敏彦(生平小)

松浦 良昭(城南小)

岩附 広行(矢作東小)

後藤 充人(矢作西小)

杉田ひろ子(宮崎小)

三浦 敦子(上地小)

田村 康則(連尺小)

内藤 隆之(奥殿小)

杉原恵美子(六美北)

鳥居 是典(矢作南小)

川口 厚(甲山中)

浦野 公一(額田中)

戸澤 剛(常磐中)

中村 公治(東海中)

山本 満夫(城北中)

和田 実(南 中)

〈小学校長会〉

会長 山本 知子(緑丘小)

副会長 武田 正道(大門小)

松浦 良昭(城南小)

● 平成二十九年 度特別委員会

- 会計監査 後藤 充人(矢作西小)
- 庶務 福田 貴子(本宿小)
- 会計 杉原恵美子(六ッ美北小)
- 会計補佐 清水 範彦(小豆坂小)
- 〈中学校長会〉
- 会長 永田 勲(竜南中)
- 副会長 杉田 吉男(六ッ美中)
- 中村 郁夫(福岡中)
- 会計監査 戸澤 剛(常磐中)
- 庶務 加藤 勝巳(竜海中)
- 会計 都筑 祐一(葵 中)
- 会計補佐 和田 実(南 中)
- 〈専門委員会長〉
- 法制 荻野 款司(六ッ美中)
- 教育条件 荻野 卓寛(北 中)
- 学校経営 鳥居 是典(矢作南小)
- 進路 中村 公治(東海中)
- 保体 小田 昌男(岡崎小)
- 福安 中垣 明道(細川小)
- 給食 名倉 嘉章(新香山中)
- 生徒指導 都筑 祐一(葵 中)
- 特別支援 酒井 洋一(矢作北中)
- 広報 米村 進(広幡小)
- 平成二十九年 度は以下の十二委員会を置き、岡崎市の教育活動の充実・発展を図る。
- ・月報「岡崎の教育」編集委員会
- 長 大西 和夫(六ッ美南小)
- 副 牧野 守(恵田小)
- ・教員の研修に関する委員会
- 長 北村 文啓(形埜小)
- 副 森 竜師(竜谷小)
- ・教職員の資質向上研究委員会
- 長 高須 亮平(梅園小)
- 副 小田 昌男(岡崎小)
- ・教職員の働き方研究委員会
- 長 荻野 卓寛(北 中)
- 副 小川真奈美(山中小)
- ・情報教育推進委員会
- 長 本間 茂夫(男川小)
- 副 名倉 嘉章(新香山中)
- ・郷土読本編集委員会
- 長 松浦 良昭(城南小)
- 副 片桐 徹(藤川小)
- ・授業改善委員会
- 長 加藤 有悟(三島小)
- 副 小田 英宣(六ッ美南小)

・英語が話せるおかざきっ子研究委員会

長 十河 幸代(六名小)

副 福田 貴子(本宿小)

・学校評価委員会

長 中野渡善樹(根石小)

・ESD研究員会

長 小島 寛史(岩津小)

・科学の心を育てる委員会

長 荻須 文裕(河合中)

・教員免許更新特別委員会

長 加藤 嘉一(六ッ美南小)

● 平成二十九年 度研究発表校

今年度の研究発表校は、市委嘱の発表校が三校、自主発表校が二校である。

○市委嘱研究発表

・北野小学校(国語・算数)

十月四日(火)

「すべての子供が楽しく参加し、わかる喜びを実感できる授業―ユニバーサルデザイン―の視点を取り入れた授業づくり―」

・竜美丘小学校(道徳)

十一月八日(水)

「豊かな心をもち、21世紀をたくましく生き抜く子どもの育成―道徳教育の教育課程を中心として―」

● 平成二十九年 度学校訪問

○岡崎市教育委員訪問

- ・城南小学校 五月十一日
- ・羽根小学校 六月二十二日
- ・緑丘小学校 六月二十六日
- ・大樹寺小学校 九月十一日
- ・北中学校 九月二十八日
- ・恵田小学校 十月十二日
- ・常磐小学校 十月三十日
- ・翔南中学校 十一月二十七日
- ・美合小学校 一月十八日
- ・下山小学校 一月二十九日

○研究発表会

- ・北野小学校 十月四日
- ・竜海中学校 十月二十五日
- ・竜美丘小学校 十一月八日
- ・福岡中学校 十一月十五日
- ・連尺小学校 一月三十日

○指導員合同訪問

- ・六名小学校 六月十五日
- ・竜美丘小学校 六月十五日
- ・常磐東小学校 十一月十六日
- ・六ッ美南小学校 十一月十六日
- ・城北中学校 十一月十六日

○自主研究発表

- ・竜海中学校(全教科・特別支援) 十月二十五日(水)
- 「能動的に学ぶ生徒の育成―見通す、かかわる、振り返る―授業づくり―」
- ・福岡中学校(全教科) 十一月十五日(水)
- 「Active Learning―ロミオニケーションを取り入れた教科学習を中心に―」
- ・連尺小学校(算数) 一月三十日(火)
- 「ESDの視点に立ち、算数を楽しむ子供を育む岡崎・連尺教育―コミュニケーション能力を思考力・実践力へ―」

・カ
ツ
ト
上
地
小
山
中
武

国語科研究授業 (大正 15 年)

写真提供：福岡小学校

大正十五年に行われた国語科研究授業の写真である。多くの参観者に囲まれ、俳句と和歌の学習に熱心に取り組む子供たちの姿がある。

参観者の左から二人目は、本校八代目校長石黒真澄氏である。校長は、研究授業を通して、教師の指導力を高める機会を大切にしたい。その結果、学力の高まりとともに、子供たちの豊かな表現力も高まった。後に、愛唱詩集が発刊されるなど、本校の特色ある教育は、こうして確立されてきた。

子供たちの力を引き出す的確な教師支援の数々は、いつの時代も、研鑽のなかから生まれ、高められ続ける。



豊浜や師崎、一色など、多くの漁港から毎朝鮮魚が運ばれて来る。百年以上の歴史を持つ市内唯一の水産物卸市場。新鮮な地元食材に、人はおいしさと安心感をいただく。

市場の朝は早い。辺りの空気を切るように、今日もまた、せりの声は飛び交う。

ど ホ

骨ばった手に藍色がしみ込んでいる。長年、一つ一つの作業をその手で行ってきた証だ。機械化が進む中で、人の手だからこそ生み出せる温かさがあることを私たちは知っている。

私たちの手は、プロ教師として常に目の前のすべての子供たちに温もりを与える職人の手でありたい。

阜 月



学年対抗リレー (矢作南小)

強くつかんだバトンが手から手へと渡される。勝利を願い、必死に繰り返してきた練習の成果が発揮されていく。

五月に行われる運動会や総合体育大会では、学級の仲間やチームメイトとの団結力を高め合う。その過程こそを大切に子供と向き合おう。



*力を引き出す「ゆとり世代」の伸ばし方 原 晋・原田耀平 講談社 ￥800

心に残った一文

青学陸上部の活動も、箱根駅伝も、あくまで人生を豊かにするためのたったひとつの小さなツールなんです。

箱根駅伝3連覇と学生駅伝3冠を達成した青山学院大学陸上部。会社員時代に培った独特の手法を取り入れ、指導する原監督は、マスコミ等でも引っ張りだこである。陸上界の常識を覆すチーム作りは、陸上界自体を変えていくことを目標にしているという。

「規則正しい生活をする」「時間を大切にする」「怒るよりアドバイス」「いつも君をみているよ」など、これからの子供たちに合わせた部活指導、生徒指導、学級経営に生きる珠玉の言葉が散りばめられた一冊である。

- * 知れば知るほど面白い宇宙の謎 小谷 太郎 ￥590
- 三笠書房
- * 2020年からの教師問題 石川 一郎 ￥800
- ベスト新書
- * ブラック化する学校 前屋 毅 ￥880
- 青春出版

矢作中 永野 光雄